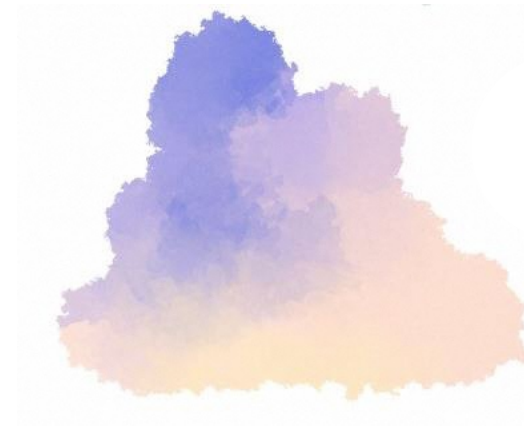
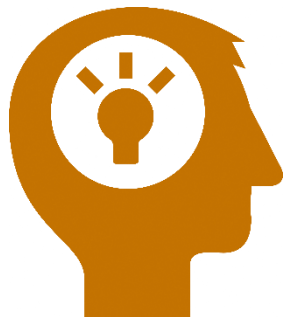


コロナ禍におけるボランティア活動の意味とは？

- ボランティアは、個人のほっとけない・なんとかしたいという思いから始まる自主的な取り組みだが、活動がしづらく、制限される状況
- しかし、コロナ禍によって、困難を抱える人は増えている
- また、困難を抱える人を支えていたNPOや地域団体も活動しづらくなっている
- 今こそ、社会課題に取り組み、困難を抱える人々へ寄り添い・支えるボランティア活動の意義を再認識し、感染拡大を予防しながら、できること、身近なアクションを！



ボランティアとは



「ボランティア」の特性

志願兵⇔徴集兵

➤ 語源 volunteer→volunte+er（人を示す接尾辞）

→ Voluntas（ウォルンタ～ス（ラテン語）自由意志）

➤ 語幹 ラテン語・volo（ウォロ＝英・will：喜んで～する）

→ 「**自発性**」が中核概念

意思・思いを
カタチに

➤ **自発性・主体性** →やる気（放っておけない、我慢できない、好きなこと、得意なこと）

➤ **社会性・公益性** →誰かのために役に立ちたい（「私益・共益」志向ではない）

➤ **無償性** →手弁当、「自分から進んでする」からこそ、
自分が費用を負担して（無償）でも取り組む

➤ **先駆性・創造性** →気づいた人が取り組む

ボランティア元年
(1995年)



ボランティアが活躍する組織・社会

- 使命に共感し、労力、技術、アイデア、多様な専門性、意欲をもたらす
- 収益が得にくくとも、広く人々が共感する事業の展開が可能に
→制度の枠にとどまらない社会改善の担い手へ
- 意欲を持ち、創造的に、自治の主体へ

ボランティアが行動に至る複雑な心理要因 “volunteers’ motivations” より

社会 social	•友人が活動していたり、知人がコミュニティーサービスをしていたりした場合、その影響を受けて参加する。
価値 value	•困難を抱える人たちや社会的な問題に関心を持ち、その人たちへの援助や、問題解決に向けて行動することが重要であると考えて参加する。
キャリア career	•新しい体験の機会を得たり、次のキャリアを探す手がかりを得るために参加する。
理解 understanding	•ものごとについて新しい見方や考え方を習得したり、直接的な体験を通じて学ぶために参加する。
保護 protective	•トラブルを避けたり、嫌なことを忘れさせてくれたり、孤独にならないで済むので参加する。
尊重 esteem	•自分が必要とされ欠かせない人であると感じるようになり、自己意識、自尊感情（self-esteem）が高まるので参加する。

ボランティア活動におけるリスクマネジメント

- ✓ リスクに対する**共通認識**を持ち、個人のレベルではなく、**組織的**な活動として取り組む必要がある
- ✓ 「リスクマネジメント」とは、リスクを**ゼロにすることではない**。リスクをとることによる利益を得るために、リスクを**コントロール可能な状態**に置くこと
- ✓ リスクに対する**予測と対策**を検討し、リスクに強い活動・体制をつくることで、その軽減を図る。安心して、安全に活動に参加する上で重要な要素
- ✓ 失われるものは、団体の持つ**あらゆる資源**【ヒト・モノ・カネ・情報・信用】

事故データからみた

事故防止・軽減に向けた 10のポイント

ボランティア活動は、参加を決定したときから始まります。事前の情報収集、準備を徹底し、活動中はもちろん、活動場所と自宅との往復途上も気を抜かず、慎重に行動することが重要です。

右に記載する10のポイントは基本的なことばかりですが、改めて確認してみましょう。

無理は禁物（体調・体力）

無理をすることは事故を起こしに行くようなものです。活動者自身だけでなく、周りの人たちのリスクも高まります。

事前の情報収集と安全確認

事前の情報収集・安全確認・日常点検でリスクを予知しましょう。熱い気持ちだけでなく、冷静な判断力も必要です。

活動に適した服装

帽子、軍手、運動靴などの事前準備で、転倒や熱射病等の防止をしましょう。

あせらず・気を抜かず

自宅を出てから帰るまでが活動です。集合場所に遅れそうなら連絡をしてあせらず向かい、現地での活動を終えても自宅に帰るまでホッとして気を抜かないことが大切です。「慣れ」が事故の基となるので、活動中は常に慎重な行動を心がけましょう。

準備運動・柔軟体操

ボランティア活動はスポーツと同じ。体をほぐし、あたためてから活動しましょう。

注意事項をよく聞く

責任者の説明をよく聞き、リスクを認識し、その対策を再確認しましょう。

休憩と水分補給

疲れたら遠慮なく休憩をとりましょう。疲れは事故の原因となります。水分補給で熱中症を予防しましょう。

過信禁物

いまの自分にできること、できないことをしっかり認識しましょう。「以前はできた」が一番危険です。

足元注意

事故原因の多くを占めている転倒、転落を防止することが大切です。「足元注意」をメンバーで声かけしあいましょう。

周囲の人との協力

単独では行動せず、できるだけ複数で行動しましょう。声のかけあい、情報共有が大切です。

